

会議概要

会議名	令和８年度 第１回認知症施策推進部会		
事務局	福祉部高齢者はつらつ支援課		
開催年月日	令和８年７月２９日（水）		
開催時間	午後 ２時００分 ～ 午後 ４時００分		
開催場所	足立区役所 南館１２階 １２０１会議室		
出席者	栗田 主一 部会長	塩谷 総吾 委員	羽田 雅代 委員
	木村 輝明 委員	大竹 吉男 委員	高齢者はつらつ支援課長 黒岩 真吾
	認知症施策推進担当係長 佃 美幸	高齢者はつらつ支援係長 福田 友樹	高齢者はつらつ支援係員 石橋 颯斗
	高齢者はつらつ支援係員 栗林 日菜子		
欠席者	白川 泰之 副部会長	鈴木 勉 委員	谷 将之 委員
	橋爪 敏彦 委員		
会議次第	別紙のとおり		
資料	・次第 ・【協議案件１】認知症本人・家族ピアサポート事業（案）について ・【資料１】ピアサポートイメージ図 ・【資料２】「足立区認知症とともにいつまでもこのまちで条例」条例文 ・【資料３】条例の理念及び目標と施策の対応表（案） ・【報告案件２】令和８年度認知症月間の取組について		
その他			

○事務局 定刻となりましたので、ただ今から令和 8 年度足立区地域包括ケアシステム推進会議、第 1 回認知症施策推進部会を開催いたします。

本日はお忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございます。

本日の司会は、高齢者はつらつ支援課高齢者はつらつ支援係の栗林が担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

なお本日は区職員のほかに、足立区認知症地域支援推進員 2 名が同席をさせていただきますので、併せてよろしくお願いいたします。

次に、本日の資料の確認をさせていただきます。

始めに、「次第」。次に協議案件 1「認知症本人・家族ピアサポート事業（案）について」。次に、資料 1「ピアサポートイメージ図」。次に、資料 2『足立区認知症とともにいつまでもこのまちで条例』条例文」。次に、資料 3「条例の理念及び目標と施策の対応表（案）」。

最後に、報告案件 2「令和 8 年度認知症月間の取組について」。

資料については以上でございます。不足等がございましたら挙手をお願いいたします。

よろしいでしょうか。

本日の会議は足立区地域包括ケアシステム推進会議認知症推進部会設置要綱第 6 条に基づき、過半数の委員が出席をしておりますので、成立いたしますことをご報告いたします。

皆様からの活発なご意見、ご質問を頂くため、迅速な会議進行にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、この会議の会議録は公開することとなっております。記録の関係上ご発言の前にはお名前をお願いいたします。

それでは始めに栗田部会長から開会のご挨拶をよろしくお願いいたします。

○栗田部会長 皆さん、暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。

昨日、熊本県で、かなり規模の大きな地震がありまして、たまたまこの 2 週間ぐらい認知症介護研究・研修東京センターの方に認知症専門医研修をやっていた熊本の方が来ていました。

昨晚あたりから、事業所の利用者の避難が始まっているということで、その指導者も今日急遽熊本に戻りました。

そちらの医療機関で、電子カルテが動かなくなっているなど、かなり色々なことが起こってきているということが分かっています。

状況まだまだこれからですけれども、災害時の認知症の対策を平時からしっかりと考えることが必要かと思っておりますので、是非今後、足立区でもご検討いただけると良いかなと思いました。

私の挨拶はここまでとさせていただきます。

○事務局 部会長ありがとうございます。

また本日は新任の委員様がいらっしやいますのでご挨拶をいただきたいと思います。木村委員お願いいたします。

○木村委員 皆さん初めまして。

足立区の高齢者福祉施設連絡協議会といいまして、特別養護老人ホームの施設長の連絡会の会長を、令和 7 年度の 10 月から務めさせていただいております。

前任は新生苑の小島施設長でしたが、その後任ということで務めさせていただいております。

令和 8 年度から、こちらの会議及び部会の方に、参加させていただいておりますので、まだ右も左も分からない状況でございますが、皆様のこれまでの取り組みに、少しでもお役に立てればと思いますので、どうぞ今後よろしく願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。

それでは議事に入らせていただきます。これからの議事進行につきましては栗田部会長よろしく願いいたします。

○栗田部会長 それでは次第に従いまして進めさせていただきます。

始めに協議案件 1「認知症本人・家族ピアサポート事業（案）」について、事務局から説明をお願いいたします。

○認知症施策推進担当 認知症施策推進担当の佃でございます。私から説明をさせていただきます。

まず協議 1 の資料からご説明させていただきます。「認知症本人・家族ピアサポート事業（案）」について、ご協議をお願いしたいと思います。

項番 1 についてですが、令和 8 年 4 月 1 日に足立区では、「足立区認知症とともにいつまでもこのまちで条例」を施行しております。

認知症になってもやりたいことを諦めずに挑戦する意欲を持つことができ、ご本人や家族の皆様などが安心して住み続けられるまちの実現を目指しております。

昨年度こちらの部会でも色々とお声をいただきまして、無事に議会の方も通り、

4 月 1 日に施行されております。

この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

また、条例のできる以前から、区では様々な認知症施策を実施してまいりました。

認知症のご本人や家族の意思や希望を尊重し、診断後も地域の中で孤立せず仲間とつながり、社会参加や日常生活を継続できるような、さらなる支援の充実を図ることが必要ではないかというところを背景として整理させていただきました。

項番 2、現状と課題です。

先ほども申しましたが、足立区では既に色々取り組みをしてくれており、認知症本人や家族が参加できる場として、事業を実施しております。

こちらは令和 7 年度の実績であり、実人数を追うことが難しく、1 年間の延べ人数となります。

認知症カフェと本人ミーティングにつきましては、足立区からハウカツに事業を委託しています。

認知症カフェは、ご本人やご家族、地域の民生委員の方等、色々な見守りをしてくださっている、理解のある皆様方に参加していただいて、話し合いをしたり、お楽しみの会をしたりしていきまして、ご本人の参加が延べで 1906 人、ご家族が 282 人でした。

回数を記載しておりませんが、25 ホウカツございますのでかなり多くの数となっております。

次に本人ミーティングの事業ですが、こちらは認知症の本人同士が集まって、自らの体験をもとに、自分たちのこれか

らのより良い暮らしや、暮らしやすい地域のあり方を語り合う事業です。

どうしてもご家族がついてこないとなかなか場所にたどり着けないという方もいらっしゃると思いますが、ミーティング自体はご本人だけでやっていただいております。延べ人数 401 人ですが、3 月までのものとなります。

次の若年性認知症本人・家族交流会ですが、こちらは区と認知症地域支援推進員で 2 ヶ月に 1 回実施しており、「おりがみカフェ」という通称をつけて、若年性のご本人とご家族の方に来ていただいている会となります。

こちらでも延べ人数となり、1 回目は来られるけれども、だんだんご本人が来られなくなるというパターンが続いておりますので、ご本人の参加が 3 人、ご家族が 24 人となります。こちらは 2 ヶ月に 1 回、1 年間で 6 回の交流会となります。

次に、認知症本人・家族会です。こちらは足立区内に東京都が指定している認知症疾患医療センターがあり、大内病院さんがこのセンターになっていただいております。そちらでも本人家族の会として開催していただいております。65 歳以上のご本人とそのご家族の方に、来ていただいている情報交換の場となります。こちらでも 2 ヶ月に 1 回です。

認知症疾患医療センターには色々なスタッフの方がいらっしゃいますので、公認心理士の方や、認知症の専門看護師の方、ご都合がつく場合は谷院長も少しトピックス的なことを話していただいて、ご家族同士、ご本人同士の話し合いをしているという事業になります。

本人が年間で 7 人、家族は 63 人という実績数値となります。

次に課題ですが、足立区内に約 2 万 1000 人の認知症の方がいると推計されております。こちらはよく厚生労働省の令和 4 年度の調査を参考に推計値を出しておりますが、65 歳以上の高齢者の人口に 12.9%をかけて約 2 万 1000 人ぐらいと推計しております。このくらいたくさんいらっしゃる認知症のご本人の方やご家族の方が、実人数にすると少ない現状があると考えておりまして、上記の事業につながる機会は十分ではなく参加者の拡大や活動の活性化など課題があると捉えております。

他にも課題があると考えておりますが、この課題に向けて認知症のご本人・家族ピアサポート事業の目的として考えていることは、認知機能低下の疑いのある人や認知症の診断を受けた人、そしてその家族に対して同じ経験を持つ認知症本人や家族がピアサポーターとなって交流の機会や、後ほど説明しますがピアサポート会において、不安の軽減や希望の共有を図るとともに区の認知症施策事業や地域での社会参加につなげていければということを目的に掲げております。

項番 3 番、資料 1 「認知症ピアサポート事業の全体像と今後の展開」です。

目的は、認知症ピアサポート事業の全体像として、現時点で考えた案となります。

色々考えましたが、この流れで委員の皆様にご意見いただければと考えております。

対象者は、もの忘れに不安がある方や、

主観的な不安だけではなく聞き取りや問診を通して認知機能低下の疑いがあると診断されている方、確定診断が下りている方、その方たちのご家族の方となります。現時点ではハウカツで実施している本人ミーティングやチームオレンジにつながる場合もあるのですが、数値から見ますとなかなか繋がりがづらい状況もあり、全国的にも言われている診断されたり、不安に思ったりした時から医療につながるまでの、いわゆる空白の期間というところが全国的に課題になっています。そこをなるべく早く支援につなげるために、ピアサポートという支援も用意しておいたほうがいいのではということで、この流れにしています。

推進員やハウカツ、かかりつけ医が対象者を把握して、既存の事業に行く前に、既に認知症と診断されている方やその家族の方が、少し先輩のような立場を取りながら悩み等を共有する場、ピアサポート会というものを準備してみてもどうかというイメージになります。

今後の展開といたしましては、まず来年度、認知症のご本人や家族同士だけではなく、周りの支援者、区の職員、認知症疾患医療センター、推進員などと学習をして、どういう体制がいいのかというのをまずは検討しなければいけないと考えています。

そこで学習した内容等を踏まえまして、段階的にピアサポート会を区内で何箇所か始めたいと考えています。足立区では25ハウカツを5ブロックに分けて取り組みをしておりますので、各ブロックに1箇所ピアサポート会があって、各ハウカツ

や地域の活動につなげていきたいと考え、この図を用意しました。

項番4、期待される効果です。

まず(1)診断直後のご本人やご家族の認知症に対する不安を軽減することが、少しでもできるのではないかとということです。

(2)が認知症カフェや本人ミーティング等必要な支援への参加や既存のチームオレンジとのマッチングを促進できる、ということです。

項番5、今後の課題です。

体制を考える中で今年度中に検討しなければいけないことを2点挙げさせていただいております。

まず(1)認知症本人・家族のピアサポート学習会の内容やサポートの体制、

(2)認知症本人・家族支援としてのピアサポート会の位置づけ、とさせていただき、皆様にご意見をいただきたいと思えます。

今回いただいた意見を整理しまして第2回目の部会でご意見がいただけるように整理したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

説明は以上になります。

○栗田部会長 ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問がございましたらご自由にご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

○塩谷委員 足立区介護サービス連絡協議会の塩谷です。よろしくお願いいたします。

「足立区認知症とともにいつまでもこのまちで条例」の中で、やりたいことを諦

めずに挑戦する意欲を持つことができる
っていうような、どちらかというと主体
性とか自律性というところを大切にしたい
というのを条例の中で一番に謳っている
と思われま

令和 7 年度に認知症カフェや本人ミー
ティングがある中で、本人ミーティング
が自主的に、ポジティブな発言とかがあ
るものだと思います。実際に認知症カ
フェがご本人何人参加で、ご家族何人参
加しているという数値は分かるのですが、
参加者数を増やすことが目的ではないと
思います。

この中でこういった発言があって、ど
のようにお互いが前向きな気持ちになれ
たなど、何かそういったところがあると、
すごく前に進んでいくのかなというイメ
ージがあるのですが、この数字だけだと
それが中々見えないです。

令和 9 年度の認知症本人や家族同士が
ピアサポートの学習会で、そのあたりを
具体的にしていくのかなと思ってるので
すが、そのようなイメージでよろしいで
しょうか。

○認知症施策推進担当 ありがとうございます。

認知症施策推進担当の佃です。

塩谷委員がおっしゃるように、報告書と
して認知症カフェや本人ミーティングで
どんな話題をしたというところはいただ
いていますが、そこももう少し、一步踏み
込んだ報告をいただくように、例えば「何
か地域づくりの話題をしましたか」とか、
そのような聞き方の報告書にはなってな
いところがございます。

また、昨年本人ミーティングについて

25 ホウカツを集めて勉強会をしまして、
そこでは、「ご本人がどういう思いでいる
か」、「どんな風に声かけたらいいか」、と
いうことを勉強して、宿題みたいな形で、
今後希望すること等をテーマに入れて話
をしてみてくださいと投げかけました。

その投げかけをしてみて、どのような
ミーティングができたか、という取りま
とめができておらず、来年度に向けて、ホ
ウカツにどんな呼びかけをしたらいいか
というのも合わせて検討が必要と考えて
います。

おっしゃるとおり、どのような内容か
という集約が今までは弱かったという反
省をしております。

○羽田委員 足立区介護サービス事業者
連絡会の羽田です。

訪問看護では 3 年ぐらい前に伴走支援
を行っており、70 歳の検診からグレーな
方たちに個別に訪問してというところで、
もの忘れや認知症に対して不安を感じて
いる人のところへ実際訪問してみると、
パーソナリティ的な部分であったりとか
別の要素がありそうで、実際は認知症か
もしれないというところで、訪問看護師
が別に関わり、ホウカツの方につなげる
ということが実践的に行われていました。

実際には半分ぐらいキャンセルになっ
てしまっておりましたが、認知症の診断
を受けた人の中で浮き出てこない人たち
がたくさんいます。

訪問看護の現場では、社会的な部分や
家族間での被害妄想など妄想的な部分で
かなり困難が生じ、医療職である看護師
が入れば本人は了解するから、まずはそ
の人の生活を見てほしいということで、

訪問看護開始になるケースが結構多いです。

このピアサポート事業に、個別のパーソナリティがある人たちを集めるというところで、本当に主体性を持って自分で色々参加して、自分のことに加え誰かの役に立ちたいという人がこういうところにたくさん参加できるといいなと思います。

そのきっかけづくりは、そういう認知症かもしれない人が主体的にそれを発動できるかという誰かの声かけだったりアテンドがないと出てこないかなと感じます。

あとは、認知症カフェに私も一緒に参加させてもらった時に、とてもやる気があって昔から地元をまとめ上げているようなおじいちゃんおばあちゃんが参加して、役割を持って生き生きとやっていたが、その地域ではいつも同じ人だということがありました。

本人が主体的にやるところに、家族がそこに乗れる人ならいいのですが、この世代はまだご家族が働いている家庭も多いと思います。

さらに家族間の関係性の気薄化といった構成の変化から、個別で一人で生活をしている高齢者、認知症の人が多いので、中々アテンドがないと出てこれないかなというところがすごく感じます。

プランを聞いてどうしようかなと思いましたが、入り口が一つではない複合的な支援が必要じゃないかなと考えています。

そういった事業や関わりをしている事業体が、実際にここに意識を向けられる

ような、支援者への実践を続ける中で、一つのプランと支援の計画としてこれが乗っかるような形というのにも必要かなと思いました。

○認知症施策推進担当 ありがとうございます。

羽田委員のお話を聞いていて、やはり入り口に立った方たちをどうつなげるかということも、まだここに落とし込めてないのですが、いくつか考えていたこととしては、今検診後の支援は訪問看護の方から認知症の推進員に変わっており「オレンジサポート」という名称に変えております。

そういったところで、早めの受診で少し大丈夫かなというぐらいの方からこういうピアサポート会のほうに、無理やりではなくこのような会もあるということでご紹介できると、早期支援になるという考えも1つございます。

あと、足立区内には大内病院さんという強い味方がおり、そちらで日々診察をされておりますので、まさに入り口に立つ本人やご家族方がいらっしゃるところでは、少しモデル的に何か始めるということもできないかなと考えています。

○栗田部会長 本日、大内病院の専従の相談員の伊藤さんが来てくださっているので、コメントをいただいてもよろしいでしょうか。

○大内病院伊藤氏 大内病院の伊藤です。やはり入り口のところというのが大変難しく、私も栗田先生の研修とか受けさせていただいて、早期発見、早期絶望にならないような支援の方法を日々考えていま

す。

しかし、大内病院は認知症に特化した、精神科の病院なので、中程度の方や重度の方がお見えになることが多く、もの忘れが気になるという方が肌感覚ですが全体の1割もないぐらいです。

そういったところで、どういうところで探していくのかなと言いますと、やはりあだちオレンジチェック等で来た方で少し気になる方というのを見つけていたらなと思っています。

また、本人・家族会の参加者の中で認知症の初期の方とかもいらっしゃいますので、そういったところで足立区さんと色々連携取りながら今後やっていけたらなと思います。

○栗田部会長 ありがとうございます。

○木村委員 高齢者福祉施設連絡協議会の木村です。

まず、このピアサポート会というものに関しては、これから運用予定ということで、どこが主体でこれを運用する想定があるのか知りたいです。

また、本人ミーティングや認知症カフェとの明確な違いは、おそらく利用する側も理解がしづらいのではないかなというのを思いながら見ておりました。

認知症を有する方ですので、あっちも行ってその次こっちに行かなければいけないとなると、ピアサポート会でせっかく慣れたのに今度は認知症カフェのほうに行きましようとか、本人ミーティングのほうに行きましようといった流れのイメージの図なのかなというところがありました。

誰がこのピアサポート会を運用するの

かというところと、既存のミーティング等々との明確な役割の違いを文章にはあるんですけども、今一度理解・整理したいなと思いました。

○認知症施策推進担当 認知症施策推進担当の佃からお答えさせていただきます。

まず、ピアサポート会をどこが主体で運営するのかというところですが、まずは区とあと認知症疾患医療センター、認知症地域支援推進員の3者で始めていくイメージでございます。

将来的にどうなるかというところはまだ検討しきれてないのですが、やはり認知症のご本人やご家族、ピアサポーターの方々と連携してやるというところでは、ハウカツさんの委託というところではかなり厳しいかなと思いますので、区と認知症疾患医療センターと認知症地域支援推進員で運用していくイメージであります。

2つめのご質問で、既存の事業との違いとしては、本人ミーティングは認知症のご本人同士が集まって、地域のあり方を話す場です。

認知症カフェは同じ病気だけではなくて、ご家族の方や、地域の方、認知症と診断はされていなく、ご本人は全くそのつもりはないんだけど、周りの人がこういうところに参加できたらいいなというところで連れて行く場所というところですよ。

やはり現状は、自分の病気についてそんなにきっちりと把握・理解ができてない方も、現実にはいらっしゃるところがございます。

また、ピアサポート会というのは、現時

点では最初の入り口というところで考えていて、認知症のご本人、認知症を抱えたご家族だけというところになってます。

まだ何回などについては組み立てができていない状況なのですが、より近いホウカツでやっている会に参加していただけたらということも考えています。

やはりこっちにいてあっちもというところの危惧も事務局や推進員からの意見で出ていたところなので、そこも次回までにはちゃんと組み立てなきゃいけないと考えております。

○栗田部会長 ピアサポート会は結構新しい発想で、あまり他の地域ではないものなので、ひょっとしたら面白いかもしれないなと思っています。

確かに本人ミーティングやチームオレンジも日本中にたくさんあるのですが、そう簡単にそこに繋がっていないです。

問題としては、やはり診断をしている医療機関との連携が非常に重要というところ です。

大内病院でこのピアサポート活動のようなものがもし行われていくんだとしたら、そこですぐにピアサポート活動につながって、そこから地域の様々な当事者活動に繋がっていくというような道筋ができるのかもしれないという感じもしなくはないです。

通常医療機関でやっているのはもうピアサポートと言ってありますが、ただピアサポートは色々と考え方が様々で難しい問題があるので、とりあえずピアサポート会から始めるのがいいかなという気がいたしました。

○大竹委員 足立区ボランティア連合会

の大竹です。ボランティアがこのピアサポート会に参加できる機会とかはあるんでしょうか。

○認知症施策推進担当 ありがとうございます。

内容等々の検討も実はこれからなのですが、事務局として考えたのは、ご本人同士、ご家族同士で語り合う場というイメージでおりました。

それ以外の色んな支援や周りのサポートできる方が入る効果がきっとあると思うので、そのあたりはもう少し検討したいと思います。

○栗田部会長 今の質問、非常にいい質問です。

こちらでも昨年、日本総研が全国のピアサポート関連活動調査をしまして、ピア活動と、ピアサポートと、ピアサポート活動と、それぞれの用語の定義をちゃんとしていこうとなっています。当事者だけでピアサポートは難しいので、ちゃんとそれを支援する人たちの活動も必要だろうということです。

それぞれの考え方はありますが、全体をピアサポート活動で呼ぼうっていう定義付けをしているんですけども。

では個々のものがどういう風にして活動していくのがいいのか、という勉強会は是非やったほうがいいと思っています。

来年度に学習会があり、当然関係者みんな一緒に勉強するということが必要です。

実際にこのピアサポート活動に繋いだり、あるいはピア活動に繋いだりという人たちは、ボランティアですよ。

ボランティアがそこに連れて行ってく

れるということをやってくれています。

せっかく足立区にはボランティアの会があるので、この活動に是非加わっていただける仕組みを考えていけるといいなと思いました。

○認知症施策推進担当 貴重なご質問とご意見ありがとうございます。

○栗田部会長 よろしいでしょうか。
では、次の次第3、認知症施策推進計画について、事務局から説明をお願いいたします。

○認知症施策推進担当 引き続き認知症施策推進担当から説明させていただきます。

現在色々な動きをしておりますので、経過とともにご説明させていただきたいと思います。

昨年1年かけて準備をしてきた条例に基づいて、認知症になってもやりたいことを諦めずに挑戦する意欲を持つことができ、本人や家族などの皆様が安心して住み続けられる街の実現を目指すという理念に基づいて、今までの認知症施策をさらに総合的かつ計画的に推進するためには、やはり認知症施策に関する計画が必要ということで動いております。

計画の位置づけは国や都の計画を踏まえて、区の基本的な方向性を示すということと、あと高齢者保健福祉計画や介護保険計画との整合性も保ちながら進めていきたいと考えています。

ただ、章を追加して計画を策定する予定でしたが、区長とも色々打ち合わせをしていく中で認知症施策の計画として他の計画と分けてお示しすることになりました。

さらに条例の中に福祉や保健医療、地域づくり、権利擁護、色々な横の関係施策を一体的に推進していけるように準備していきたいと考えています。

具体的な計画策定に向けた考え方として資料3の説明をさせていただきます。

条例の理念に基づいて計画を作っていくということで、条例の前文と基本理念をそのままここに掲載させていただいています。

基本理念が5つございますけれども、こちらを漏れないように、目標を3つに整理して計画を整理していけたらと考えております。

「認知症になってもやりたいことを諦めず、自分らしく希望を持ち、安心して暮らせる」というところを1つ目標に考えております。

次に2つめの目標としましては、「認知症を理解し、区民1人1人がお互いの人格や個性を尊重して地域で支え合う」、です。

3つめに、「認知症に早期に気づき適切な支援につなぐ」、です。

この3つの目標、それぞれの目標にどんな施策が紐づくかというところを施策として掲げさせていただいています。

まず(1)自分らしく希望を持ち安心して暮らせるというところを目標にした時には、先ほどご意見をいただきました認知症本人・家族のピアサポートについての仕組みということを新規とともに重点という風に考えて太字で示しております。

また、本人ミーティングであったり、若年性の本人・家族交流会であったり、医療センターの本人・家族交流の会というところ

ころもこちらに含まれると現時点では考えています。

次に(2)認知症を理解して人格や個性を尊重して地域で支え合うというところでは、かなりたくさんの方にはなりますが、チームオレンジの取り組みがしっかり根付くように重点にしていきたいと考えています。

先日もステップアップ講座を実施したところ、78人の地域の皆様に参加していただいております。さらにこのチームオレンジには重点を置きつつ、認知症サポーター養成講座や声かけ訓練、認知症月間、カフェ、認知症ケアパス等、しっかりこの(2)の目標の中に入れて計画を整理していけたらと考えております。

次の(3)認知症に早期に気づき適切な支援につながっていくという目標におきましては、あだちオレンジチェック、認知症検診事業、早期支援というところでは、やはり重要なところと今後も位置づけが必要ではないかと考えております。

従来のもの忘れ相談や、初期集中支援、アウトリーチ事業、認知症ケアプログラム推進事業も進めていきたいとは思いますが、最後の認知症高齢者の早期発見ネットワーク、見守りのキーホルダーや1人歩き高齢者の位置検索システム費用助成などもこちらの中に入るのではないかと考えているのでこのように位置づけております。

ただこちらにつきまして、一応この目標達成のための、どのような指標とかどんな評価をしていけばいいのかということ、是非、ご意見いただけたらありがたいなと思っております。

この計画については、現時点では通常3年とか5年と言われているのですが、3年ですと早いですし、5年だと他の計画と乖離するリスクもあるということで、現時点では足立区では6年というスパンで、もちろんその前に必要に応じて見直すということも盛り込もうと思っています。

今年度末の3月に完成を目標にしているんですが、11月から12月にかけてパブリックコメントもする予定で急ピッチで作業しております。

この目標の設定や、評価、どんなところを指標と置いていったらいいのかというあたりで、ご意見をいただければと考えております。

○高齢者はつらつ支援課長 高齢者はつらつ支援課長の黒岩でございます。

この資料なのですが、これまで計画を策定するにあたって、区長に複数回相談に入っております。

その中で今の区として共通認識が取れてきているのが、区としては認知症施策様々やってきているということで、基本的な方向性は大きく変える必要はないというところなんです。

ただ、この計画ができたことによって、認知症の施策が次の段階に進んだ、ということも計画にしていきたいという共通認識が取れていると思います。

そのために、やはりそれを評価する指標や、その取り方が重要になってくるということもございますので、是非その点についてもご意見いただけたらと思っております。

○羽田委員 現場ではいろんな利用者がいるんですけど、それぞれの事業に対し

での評価指標はやはり参加率、参加人数とかその内容の満足度があります。

ですが、その先となると不安とか、家族とか本人の困り事がどういう形で解決できたかということが見える化されるとすぐく指標になるのかなと思いました。

まずちょっと本人の心理的な変化、参加した人の心理的な変化。
また、6年のスパンで評価となると進んできて、参加してる人たちの顔ぶれも変わってくると思います。

その対象を、ある程度個別に追って評価をしていくのか、それとも相対的な評価としてしていくのか、また、本人のその気持ちが安心していることが目標だから、安心しているかどうか、こういう活動に参加して、自分の不安な気持ちが、とか、あとは生きる希望が生まれたかどうかとかなど、そういう心理的なところの部分の参加しての変化というのは私も知りたいなと思います。

○栗田部会長 実は私、日本全体の認知症施策推進基本計画の KPI を測定する委員長をやっております。

認知症施策の評価って非常に難しいです。

構造からいうと、基本理念があって、通常重点目標といって基本理念にあることを全部達成するのはとても大変なので、とりあえず何年間の間にここまでやりましょうという目標が重点目標なので、3つぐらいで悪くはないかなと思います。

ただしこの3つの目標に1対1で事業が結びつくかというそうはいかないんです。

無理に重点目標と1つ1つの事業を結

びつけようとする事業がいびつになってきちゃうので、あまり無理につなげなくていいんです。

事業全体でこの3つの重点目標をちゃんと達成するようにしよう、と。

評価の仕方として最終的にアウトカムとして認知症の本人の体験を聞くのは非常に重要なのですが、そこが中々聞けないんですよね。

なのでプロセス指標とアウトプット指標とアウトカム指標に分かれています。

例えばプロセス指標というのは事業そのものがちゃんとこういう原則に基づいてやられているんだろうかどうか。

アウトプット指標というのは実際に行った数です。

最後のアウトカム指標、認知症本人とやっぱり家族の意識の変化っていうのが非常に重要になります。

認知症本人のウェルビーイング、主体性とか活動性とか希望だとか安心、こういうのは心理的ウェルビーイングですよ。

あるいはみんな支え合っているのだろうか、人権が守られているか、これは社会的ウェルビーイングです。

そういうものをちゃんと簡単な質問項目を作って評価する。

ただし代表性のあるサンプルでやらないといけません。

家族も同じで、それからあと区民全体、区民全体の意識、これもそれなりの代表性を持って評価しましょうと。中々簡単じゃないですよ。

ただそういうことで、今年から国の基本の KPI の測定が始まりますので、それ

との関係性を見ながら方法を具体化させていったほうが安全かと思います。

○木村委員 高齢者福祉施設連絡協議会の木村です。

認知症を一括りで対応するのは大変困難なんじゃないかなと現場で思います。

認知症 1 つとっても脳血管だったり、アルツハイマーだったり、レビー小体、前頭側頭型っていうのが代表的にありますが、それぞれの認知症と言われる中の分類によって対応もだいぶ変わってきます。

専門的な対応、努力と根性、寄り添うだけではもうどうにもならない状況があるのは介護現場で非常に感じております。

認知症の分類それぞれに対する理解というところの学習や施策というところがあるといいですが、ただそれを区民だとか一般の方たちに専門的なものを学習してもらおうというのは中々困難なことだということとは十分理解しつつですね。

しかしながらただの認知症は記憶障害 1 つだけではないです。BPSD、いろんな症状があるわけですから、基本となる認知症を理解しながら進めていく必要があると思います。

少し戻ると、先ほどのピアサポートというところに関しても、認知症一括りでなくてレビー小体型の方たちを集めたピアサポート、前頭側頭型の方たちを集めたピアサポートとか、そういった少し細かい分類をしていかないと、進んでいかないのかなというところを少し感じておりました。

○認知症施策推進担当 認知症施策推進担当の佃です。

木村委員がおっしゃったとおり、やは

りこのように計画に落とし込んでみると、まだまだ足りないなと思っていたところ です。

疾患ごとの、というところは参考にさせていただいて、今後組み立てていきたい と思います。

○栗田部会長 今の話は適切な支援に関 係しているかもしれないですね。

専門職も含め、認知症についてリテラ シーを高めていきましょう、ということ と関係します。

ちなみに、ひとり歩き高齢者位置検索 システム費用助成で GPS が普及すれば行 方不明者が減るわけではないです。

ただ GPS 普及すればいいというだけじ ゃなくて、やはりアルツハイマー病とい うのは比較的軽度の段階から道に迷いや すいというのがあります。

視空間認知障害が出てきやすいという 症状がある、ということをもみんながよく 知っているということは大事です。

本来はちゃんと本人と意思を共有しな がら使えるような仕組みづくりというこ とを全体的に考えていかなければいけな いので、そんなことを考えながらやって いくのは大事です。

次は、報告 2、令和 8 年度認知症月間 の取り組みについて事務局から説明をお 願いいたします。

○認知症施策推進担当 引き続きご説明 させていただきます。

令和 8 年度認知症月間の取り組みにつ いてご報告いたします。

足立区では平成 30 年から毎年 9 月を認 知症月間として啓発の取り組みを実施し てまいりました。

1 目的です。

早い内から認知症について正しく知るとともに、区の認知症施策の取り組みについての情報を得るきっかけづくりを行う。

併せまして、認知症の人が地域で役割を持ち活躍できるといった新しい認知症観の普及も図ってまいりたいというところを目的に置いております。

2 対象です。

特に40代、50代の、親世代を見る介護の入り口に立つような方たちをターゲットにしてきております。

3 内容についてです。

(1) 普及啓発イベント及びパネル展示。
アリオ西新井さんに今年度は9月の第1土曜日、日曜日に、場所をお借りしてVR体験をやる予定です。

実はこの第1土曜日・日曜日は足立区の防災担当部署が防災フェアを開催しておりまして、同一日程同場所で、認知症についてのVR体験をさせていただくということで、避難所で認知症のご本人やご家族がどういう風に過ごしたらいいとか周りの方がどういう風に理解をしたらいいかというところをパネルを使って展示いたします。

次にパネル展示ですが、9月8日から9月17日まで区役所1階のアトリウムところで展示コーナーを設けて、正しく認知症のことを理解していただいたり条例のことなどを知っていただいたりする機会にしたいと思っております。

(2) 若年性認知症ご本人による講演会。

実はここにかなり今年は力を入れて準備しているものになります。

令和8年9月18日、すこやかプラザあだちにおきまして、丹野智文さんという若年性認知症のご本人に講演をいただきます。

39歳の時に若年性アルツハイマー型認知症と診断されて、現在もお仕事をされながら全国、海外で啓発活動をされています。

定員は90名としております。

周知ですが、あだち広報8月10日号やSNS、あだち脳活ラボでも発信予定です。

平日の開催になりましたので、講演後1年間はアーカイブ配信を予定しております。

(3) 認知症施策に関するオンラインアンケートの実施。

今年度もアンケートを実施する予定です。アンケートを広く区民の方を取る予定で準備をしております。

(4) 周知方法です。

認知症月間全体のリーフレットの作成を準備しております。リーフレット・ポスター・ポップを区内の医療機関や歯医者、薬局、商業施設、区内の関連施設に置かせていただきます。認知症月間のPRもあだち広報8月25日号を予定しております。以上です。

○塩谷委員 若年性認知症ご本人による講演会というところで、丹野さんのように認知症を患いながらも実際にお仕事をしてという方で、ポジティブなメッセージができるのかなというので、私個人としてもすごく楽しみです。

前向きになれる、すごいきっかけになるゲストかなと思ってます。こういったのが継続的にやっているとすごくみんな

な心強いのではないかなと思いました。

○栗田部会長 ありがとうございます。

では次は、その他、第2回認知症推進部会の日程についてお願いいたします。

○認知症施策推進担当 次回は令和8年11月6日金曜日の午後2時から4時で、場所はこの12階の会議室を予定しております。

○栗田部会長 日程についてはよろしいですか。

今日、認知症地域支援推進員が2人来ているので、少しコメントいただきたいと思っております。

推進員は一番当事者と施策を結びつける重要な繋ぎ役であるということで、現場の声を色々言うてもらうことが非常に重要かと思っております。

せっくなので自己紹介していただくから。

○認知症地域支援推進員 西部ブロックの認知症地域支援推進員をしております田川と申します。

西部ブロックは6ハウカツあり足立区の中で一番ハウカツの数が多いブロックとなります。

足立区も条例を作って認知症基本法から新しくなって、各ハウカツが認知症カフェや声かけ訓練、本人ミーティング、いろんな事業が増えていくたびに、現場のハウカツから「大変だ」とか「これとこれの違いって何だろう」という声も聞きます。

本当に皆さん大変だけれども、1つ1つ時間をかけながら噛み砕いて理解して頑張っています。

本人ミーティングでもなかなか人が集

まらないとか、どうやったらいいのという事で去年学習会を初めてやりました。

そのような学習会をやることで各ハウカツ同士が共有するというのはすごく大事だなと思いました。

なかなか認知症本人が自分の思いを話すことは難しく、いらっしゃらないわけではないけれども、なかなか日々の仕事に忙しくそこまで繋げる労力がないですが、ただ私たちが拾ってちゃんと繋げられるようにしなきゃいけない自分という風に。

本人の声を聞いて何か事業につなげるのはいいけど、それがちゃんと本人の声を聞いているのか、自分たちの声になってないかっていうのを。

本人と向き合って、本人がやりたいっていう風なことを引き出してやっぱり繋げていくっていうのが大事なのかなっていうのはこの前研修行って思ったので、しっかり声を聞かなきゃいけないなと。

まずは知っていただかなきゃいけないなということをすごく実感してます。

○認知症地域支援推進員 中部ブロックを担当しております高井と申します。

私は4月に異動してきました、推進員としてまだ3ヶ月ということで、正直なところ初めてのことが多いです。

異動してきて驚いたのは、認知症を切り口に見た時に、会議やイベントがこんなにあるんだということなんです。

お恥ずかしながらここまでのことをしているというのを全然知らなかったのも、まだまだ伝わってないかなというのも感じています。

現場の声を一番にしていくことの大切さ

も合わせて痛感しているので、当事者と施策を結びつけることが大事というメッセージを胸に頑張っていきたいなと思っていますところでは。

○栗田部会長 素晴らしいコメントありがとうございました。

それではこれにて、私の司会の役割は終わりだと思います。

○事務局 栗田部会長ありがとうございました。

委員の皆様におかれましても活発なご意見・ご質問をいただきありがとうございます。

最後に事務連絡がございます。委員の皆様で、本日お車で来られた方につきましては駐車券の割引処理をいたします。

また、事前にご送付しております部会報酬の通知につきまして、お振込みの講座が昨年度と異なる場合は事務局にお申し付けください。

それではこれにて第 1 回認知症推進部会を終了といたします。

本日はありがとうございました。